

件名	令和5年度 第1回 福井市障がい者自立支援協議会 こども部会 報告書	会場	こども療育センター会議室 ※オンライン併用
日時	令和5年5月18日(木) 10:30~12:00		
協議事項	(1) 昨年度の主な取り組み内容の確認と今年度の活動方針(案)について i 就学時の放課後等デイサービス利用に関する課題について ii 教育と福祉の連携について iii 強度行動障がいに関する WG について iv 支援が必要な児童に関するハンドブックについて v その他 (2) 部会年間予定		
協議結果	(1) 昨年度の主な取り組み内容の確認と今年度の活動方針(案)について(資料1~4) ○一括説明後、資料3については、口頭で補足説明(※)。 ※令和元年時、地域の学校と福祉との連携という部分での連携として作成され、昨年度の部会のなかで、地域課題として挙がって来た。地域の学校と福祉との関係として作成されたものであり、特別支援学校や場合によっては保育園も含めた関係機関との連携については落としこんでいない状態にある。 【意見等】 ・資料3は、福井サービス・相談につなげるためのフローで、ここにセンター・特支校等を載せると迷ってしまうので、保護者が困り感を持ち相談したいときにはハンドブックを使ってもらうといい。 ・強度行動障害の研修をすることは決めたが、昨年度特別支援コーディネーター研修で「知る」という1段階は踏んでいる状況。今年度は、さらに踏み込んだ研修を考えている。 ・福井県障がい福祉課が「ふくいっ子ファイル」について保育園にアンケートを取ったところ、9割方はアセスメント等で活用しているが、まだ移行支援というところには活用されていないという結果が出たので、参考までに報告する。 【結 果】(挙手採決)賛成多数で、活動方針についての承認を得る。 ○就学時の放課後等デイサービス利用に関する課題について(資料2) ～「就学にあたって、放デイが使えない児がいるのではという課題」についてのアンケート内容の更なる検証をする必要性と、WG での検証の必要性について～ 【意見等】 ・これを検証しないまま終わると、繋がらない方はそのまま、何とかなってしまうという現状にある。また、放デイだけでなく、児童館等いろんな機関が絡んでいるので、WG はあったほうがいい。 ・児童館のスタッフ間でも、そういった課題感は抱えていて、周知の仕方も、例えば「放デイに行ったら?」といったものになってしまっている現状もある。 【結 果】①WG を作ることに反対意見なし。 ②メンバーの選定については、部会長一任に、全員挙手。 ※なるべく負担にならないようにオンライン開催も取り入れ、参加しやすいようにしていきたい(部会長)。 Q 放デイ事業者にもアンケートを取るという理解でよいか。 A そのとおり。放デイ事業者へのアンケートについては、事務局が担当する。 Q 利用したいところを利用できるかどうかは課題にあるかと思う。 希望をかなええる土台はあるのか。 Q 現状として、相談員から計画が上ったときに、事業所が決まっていないケースはあるか。		

A 相談支援専門員から計画が上ってきたときは概ね事業所は決まっており、どこかしら利用するといった状況。ただ、もう少し利用出来る事業所を増やしたいのだが…といったことはあると思う。その前に委託相談が利用できる事業所や相談支援専門員を探す際に、相談支援専門員が見つからないとか、事業所の空きが見つからず、利用につながるのに時間がかかるといったことは、時期にもよるが見受けられる。

A 時期にもよる。年度末等は全然決まらないということはないが、家族が希望する日数は行けないことは多々あり、療育の方向性については言えないといった状況。

【意見等】

- ・利用できるのかというところは、そもそも必要なのかといったところも考えていかないといけないところ。また、放デイしかだめなのかといったところも課題としてある。＜利用が必要なのに利用できない＞ことも課題としてある。様々な課題に対し、福祉としてはこういうことが出来るのではといったところをワーキングの中で協議が出来ればと思う

- ・気になるのは、相談員側からの課題だけが出ていること。放デイとしての課題も、ある程度出したうえで、両方に共通するところに絞り、優先順位をつけるようにしてもよいのでは。

- ・通所・相談・保護者からといった課題を整理し、優先順位をつけていくのがいい。

【結 果】まずは今回のアンケートからみえてくる課題感の検証が必要。

＜相談員からのアンケートを基に、誰の困り感かを整理するワーキングを1回。放デイのアンケート検証に向けたワーキングを1回。3回目は、どの課題の解決に向けて、どういう機関にどういった依頼をするかの検討をする＞こととし、WGについては、事務局と部会長のほうでメンバーや時期について検討。チームに参加したい場合、事務局に連絡して貰えば、参加可能とする。

○教育と福祉の連携について

～資料3の流れで周知することについて～

【意見等】

- ・毎年4月開催の特別支援コーディネーターの会議で周知しており、だいぶ浸透してきていると思う。管理職に向けても、5月の校長会や教頭会等で伝えている。

- ・福祉側には事務局として特段周知はしていない。相談員が学校とうまくいかないとき等連絡が来るが、そうでない人も結構いるということか。

- ・情報として来た場合は、障がい福祉課に相談している。

- ・学校で困り感があった時は、学校教育課が所管課になるので、基本的には連絡がいき、イレギュラーなケースについては、飛ばさないよう修正する等、教育側は流れが出来ているが、福祉側の周知はできていず、重要と感じる。相談支援事業者連絡会・児発管ミーティングで、周知する必要はあると思う。相談員に共通する内容が周知され、学校にこういった文書が来たら、受け入れて欲しいといったことが改めて言えるので、相談員がいちいち説明する必要はなく、効果的か。

Q 学校は、対象児の相談員はわかっているか。利用している事業所は分かっているが相談員が分かっていない保護者がいる。相談員も学校に行くことが分かっていない例もある。

A 計画を立てる相談員がいるということは都度連絡する。

- ・学校で福祉サービス利用に困り感が出た時に出てくる課題感は、相談支援専門員ではなく基本的には児発管にある。本来、相談支援専門員はそうした課題があることを知るために参加するといったスタンス。整理したいのは、この流れを誰もがわかっていることが必要になるということ。事業所連絡会でも周知させて貰う。児発管ミーティングでも周知が出来ることがひとつの着地点。

Q 複数事業所利用の場合は、どうなるのか。

A 相談支援専門員がサービス等利用計画を立てるが、「総合支援方針」は、対象児の困り感に対し、こういうサービスが必要という主題の部分。本来なら、その方針を立てる際、課題は学校や児発管が書き、必要な福祉サービスを紐付けていく計画を相談支援専門員が書き、細かい計画を

	<p>児発管が立て、学校と共有するもの。初めの担当者会議に保護者や学校が入っているという流れが国が示している流れであり、これが適切に行われていると、困り感は生じない。</p> <p>Q 高校とか特支との間で、齟齬が生じ、連携が難しくなった時の課題の集約の場はあるか。</p> <p>A 特別支援学校は小人数というメリットもあるかと思うが、手厚い支援の下で漏れがない。</p> <p>高校側の支援については通級とかを含めて支援に入って貰って6年になる。個別案件についても丁寧にセンターや県の総合研究所・スクールカウンセラー等が入っており、トラブルケースは、具体的には上がっていない。高校教育課が窓口にはなっている。事業所とのトラブルといったことが実際には上がってきていないということは、学校の中でうまく対応して貰えていることなのかと思っている。</p> <p>・就労継続支援 B 型事業所利用の場合、就労アセスメントは高3秋の実習期間に一斉に取られる。アセスメントを実施する移行支援事業所は数少なく、時期を早めて貰えないかと問い合わせても難しく、相談員が探し回るといった現状にあることを目にしている。</p> <p>➡高校教育課:担当者会議で事業所からあがってきている声等を聴いてみる。</p> <p>【結 果】今議論された話を、相談支援事業者連絡会事務局会議・相談ミーティング・事業所連絡会・児発管ミーティングで何らかの方法で共有し、周知に向けていく。</p> <p>○強度行動障がいに関するWGについて:確認事項</p> <p>自立支援協議会より「強度行動障害児者に対しどのような事が出来るか」といった課題について、当部会では、一般教員向け研修会実施(事務局企画進行)と、移行支援に医療・教育・福祉が連携参加できるようにといったこととなった。また、加算がついている児(19名)に対しては、早い時期から、この三者連携が出来ることの保護者周知を、障がい福祉課がすることとなった。</p> <p>○支援が必要な児童に関するハンドブックについて(資料4)</p> <p>※保護者に対する QR コード付きチラシ配布時期は、7月。配布方法は未定。</p> <p>各関係機関には1冊ずつおよびデータとしても渡す予定。</p> <p>【意見等】</p> <p>・配布の際に、対象は何歳から何歳といったことをチラシ配布で改めて記載したほうがいい。</p> <p>・集まった感想をもとに、年1回はブラッシュアップできるよう、部会の中で検証する。</p> <p>(2) 部会年間予定について</p> <p>資料に従って報告し、賛成多数で、原案通りの実施となる。</p>
次回	令和5年7月20日(木)10:30～ こども療育センター 予定